

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた取り組み

2025年12月

systems

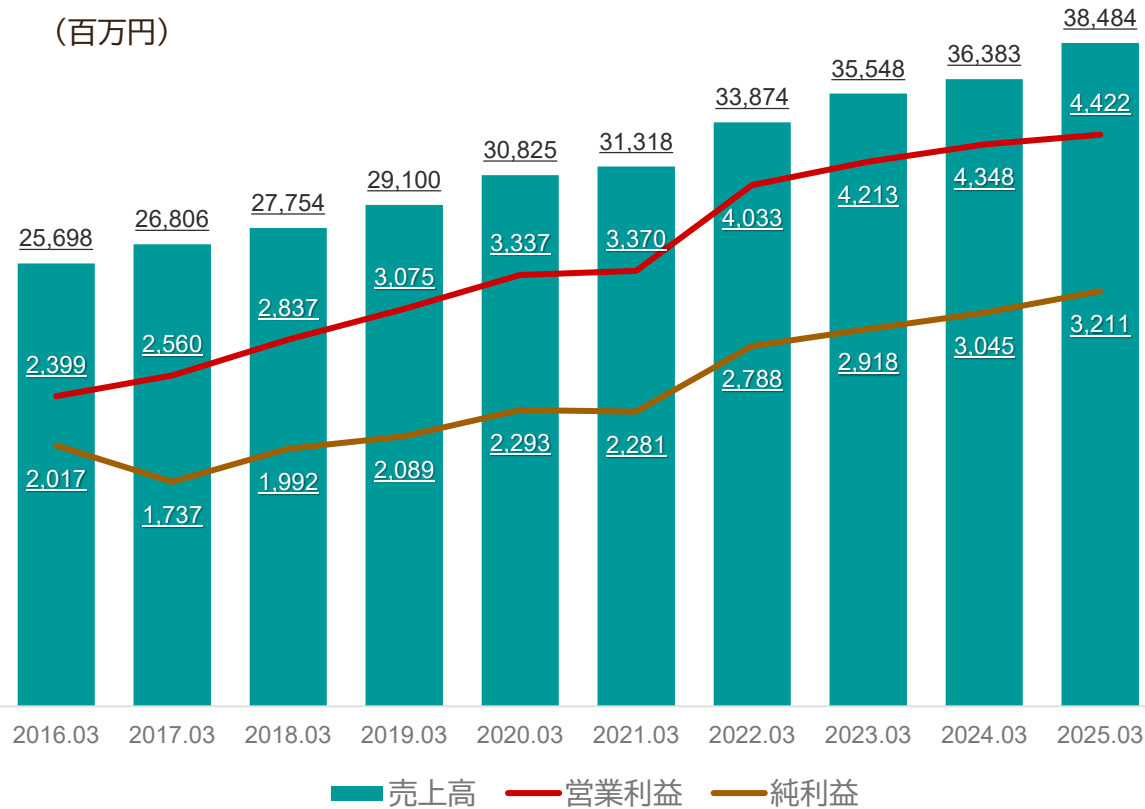


株式会社アルファシステムズ

現状分析(成長性・資本)

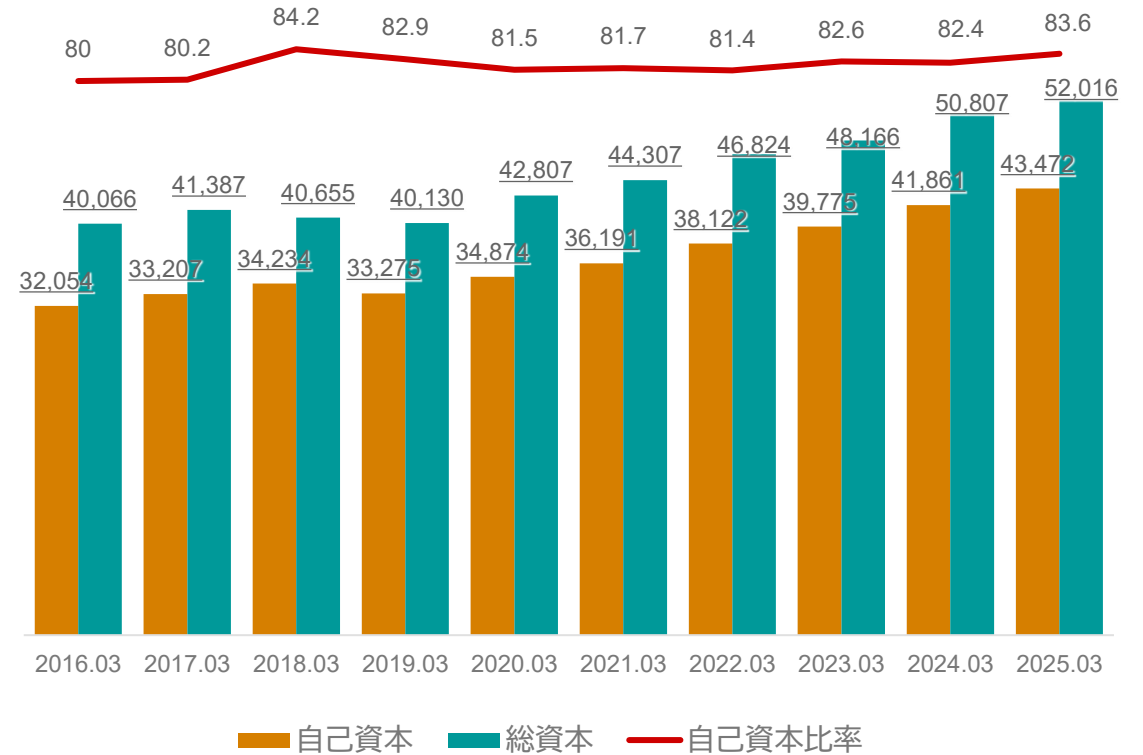
売上高・営業利益・純利益

(百万円)



総資本・自己資本・自己資本比率

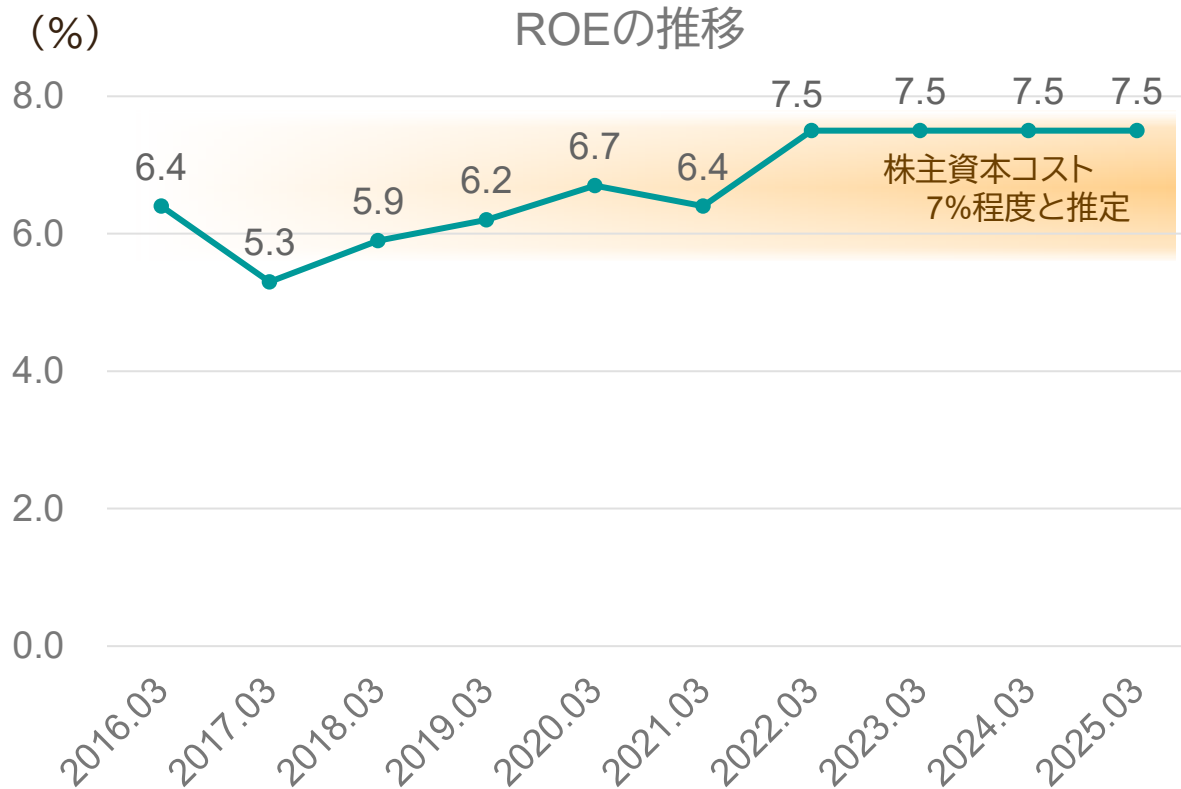
(百万円)



堅調な業績推移を背景に、強固な財務・事業基盤を確保

無借金(借入ゼロ)、自己資本比率は上場来80%水準を維持

現状分析(資本収益性)



ROE

直近3期末の実績は、**7.5%**

株主資本コスト

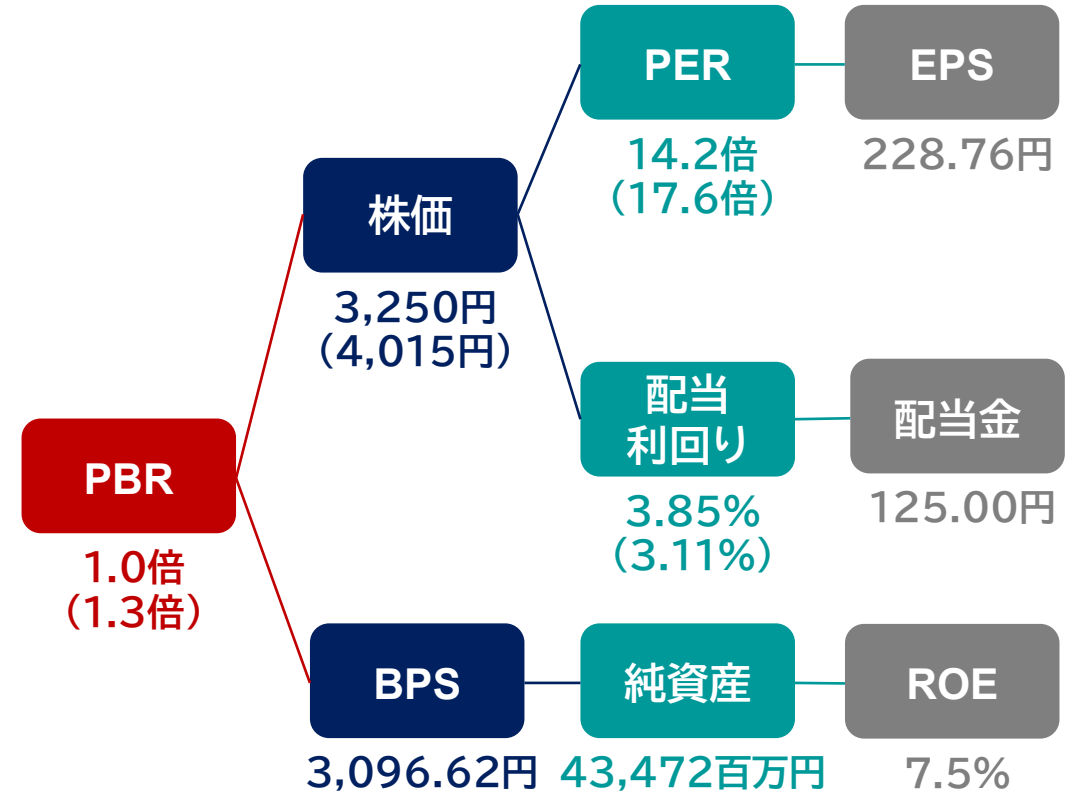
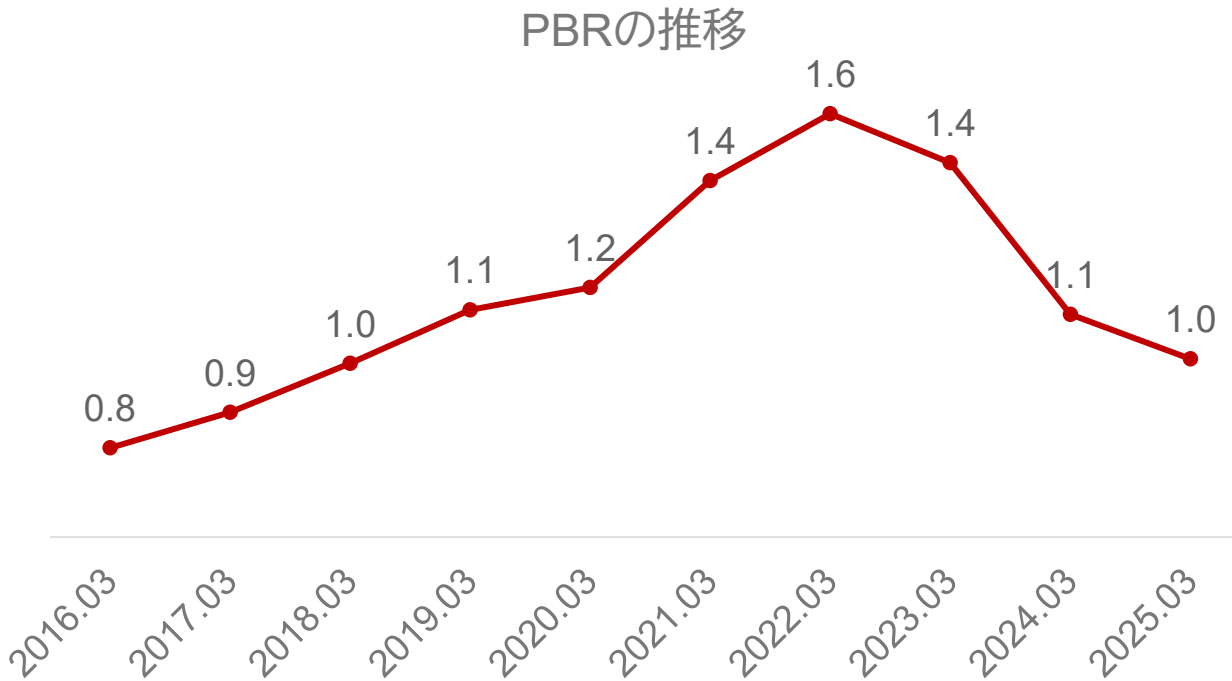
$$\left[\begin{array}{c} \text{国債10年利回り} \\ \text{リスクフリーレート} \end{array} \right] + \left[\begin{array}{c} \text{1~5年} \\ \text{で算出} \\ \text{ベータ} \end{array} \right] \times \left[\begin{array}{c} \text{ヒストリカル法・} \\ \text{インプライド法の平均} \\ \text{リスクプレミアム} \end{array} \right]$$

= 7%程度と推定

※有利子負債はゼロのため、株主資本コスト=WACC

ROEは、株主資本コストを上回ってはいるものの、引き続き向上が必要な水準と認識

現状分析(市場評価)



※括弧内は、2025年12月17日の株価を元に算出した数値です。

PBRは、2016年3月期以降順調に改善してきたものの、足元では1.3倍前後、事業環境は堅調さを保っており、直近高値のPBR1.6倍以上には評価され得ると認識

現状分析と課題(まとめ)

直近の推移

資本収益性

自己資本純利益率

資本コストを上回るも、
7%台で推移

市場評価

株価純資産倍率

足元では1.3倍前後

成長性

営業利益

着実に連続増益を達成

一株あたり純利益

200円台に到達

成長投資

システム開発力強化

採用・教育・開発環境強化

プロダクト・サービスによる収益創出

研究開発活動に
年1億円前後を投下

今後の課題と方針

次世代に向けた戦略的施策に経営資源を確保して
事業価値の向上を図る

持続的な 成長戦略

成長投資と財務安定性の両立

収益力を高めてROE、PBRを向上

株主との 接点強化

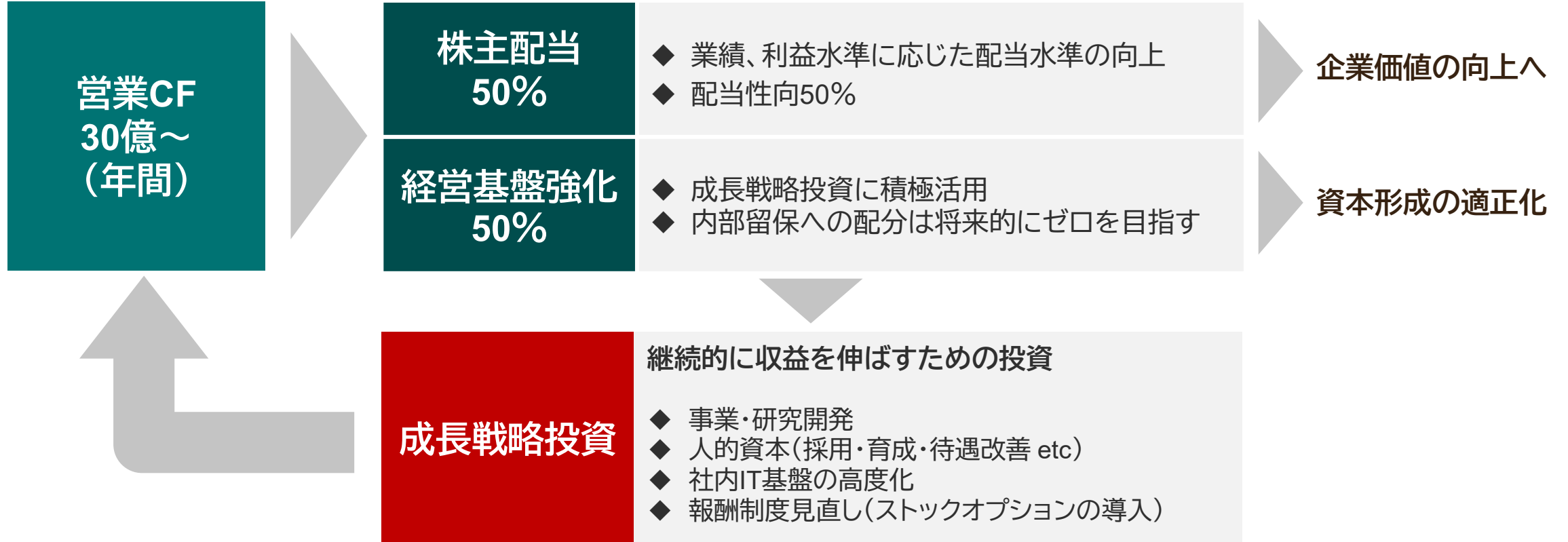
持続的な成長戦略を伝える機会の充実

株主還元強化

業績、利益水準に応じた利益還元により
企業価値の向上を目指す

取り組み①-1 キャッシュアロケーション(営業CFの活用)

今後は内部留保への配分を縮小し、将来の収益を生み出すための成長戦略投資を拡大



当社における最も重要な経営資源は“ヒト”であることから、成長戦略投資は人材の確保や育成、研究開発などが中心となります。これらの会計上の科目は人件費、研究開発費としてP/Lの営業利益までに反映されます。このため、これらの投資は営業CFに反映され、投資CFには表れません。

取り組み①-2 キャッシュアロケーション(全体)

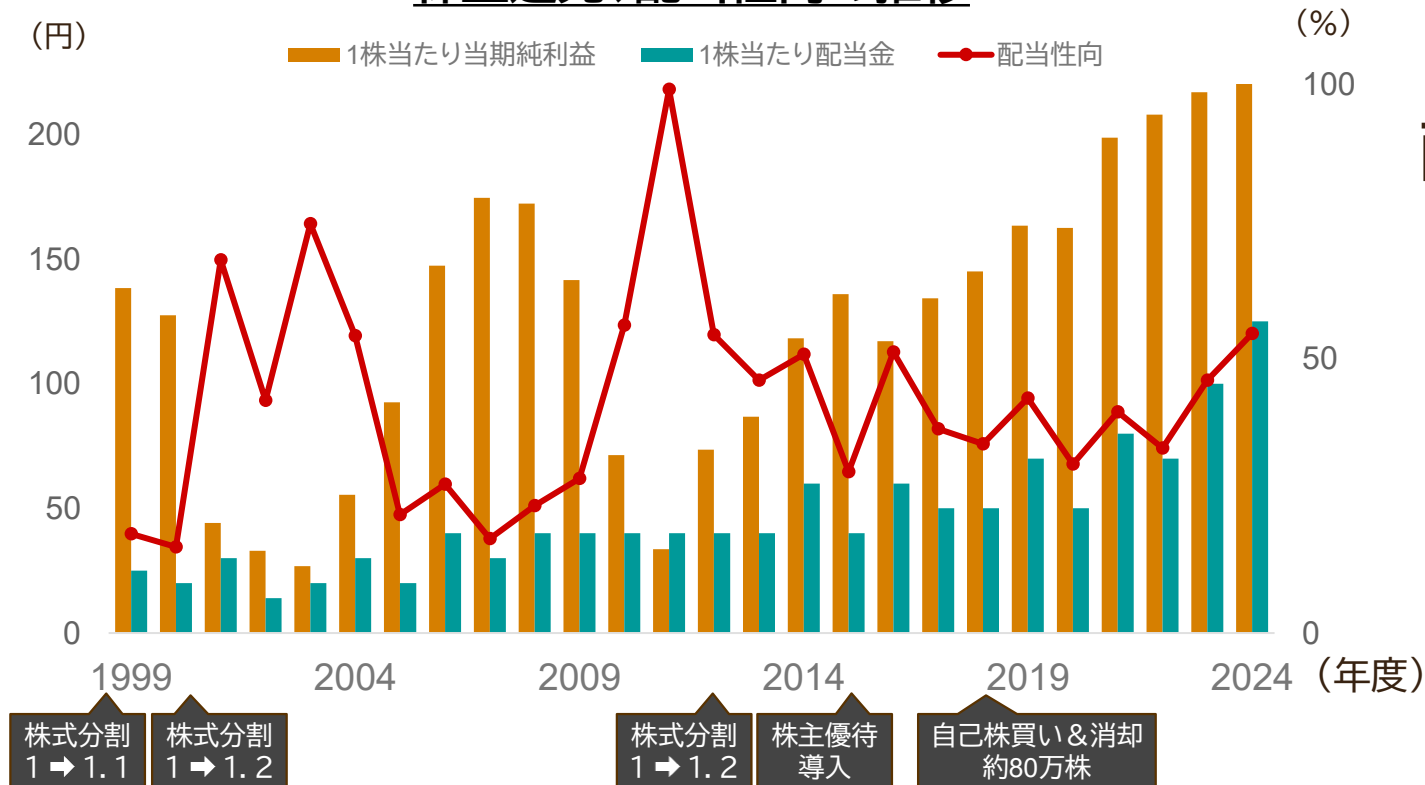
経営基盤の強化と株主還元のバランスを重視し、質のともなった成長を実現

営業CF 30億～ (年間)	成長投資と還元	成長戦略投資 ／内部留保	◆ 内部留保への配分は徐々に縮小	成長戦略投資に積極活用	事業・研究開発
		株主還元	◆ 業績、利益水準に応じた配当水準の向上 ◆ 配当性向50%、自社株買い		
手元資金 300億	将来への備え	設備資金	◆ 開発センターの拡充・改善		社内IT基盤 高度化
		事業運転資金	◆ 給与・経費等の経常的な資金		報酬制度見直し
		人的資本	◆ 従業員の待遇改善・リスクリング・福利厚生の充実等		
		その他	◆ 業績不振時の配当、社内IT基盤の高度化など		

有利子負債 ゼロ

取り組み② 株主還元強化

株主還元、配当性向の推移



配当方針

- 業績、利益に応じた配当水準の向上
- 配当性向50%を目安に配当

株主価値の向上を意識した適切な株主還元の実現

取り組み③ 株主との対話

決算説明会

- 決算説明会(5月、11月)
- 証券アナリスト・機関投資家に対するアンケートを実施

イベントへの出展

- 野村IR資産運用フェア
2025 WEB(3,818名)
- 日経・東証IRフェア
2025 対面(400名)

※人数は当社ブース延べ来場者数

株主との対話

- 個別面談回数33回
- 延べ面談人数38名
(2025年3月期実績)

投資家との対話で得られた意見については、定期的に取締役会に報告するとともに、適宜施策の見直しに活用

(参考) 株主・投資家との対話で出た主なご意見

経営の安定感については概ね理解して頂けているが、主に成長投資の考え方やIR活動について改善が必要という提案を頂いており、継続的に改善に努めていく

	ご提案、ご意見
株価対策・株主還元の 考え方等	資本政策の透明化により、投資家へ安心材料を提供して欲しい。
	株価対策として、ROEやDOE目標の設定を行うなど、企業価値の向上に取り組んで欲しい。
	実績を踏まえれば株主還元の基本方針を累進配当とすべきではないか。
IR活動や情報開示の 不足等	他の上場会社が実施しているように、第1、第3四半期にも決算補足説明資料を開示してほしい。投資家の注目度が上がると思う。
	「中期経営計画」で会社の成長戦略を開示することにより、投資家の理解が深まると思う。
	世の中の流れでもあるが、海外投資家向けに開示資料の英文開示に取り組んだ方がよい。

(参考) 中期的な経営戦略 ～事業環境と方向性～

国内IT市場は堅調に拡大を続けています。しかし、若者人口の減少や当社事業規模の拡大が進むにつれ、必要な技術者の確保(新卒採用、BP)は年々難しくなっていきます。当社の「ソフトウェア開発関連事業」は人月ベースの事業であるため、成長性が鈍化する可能性もあります。一方、株式市場では企業に対して高い成長性(3～10%以上)を求める声が強まっています。

当社は、これらに対応するため、成長戦略として、以下の2つの方向性を打ち出します。

- **「ソフトウェア開発関連事業」における一人あたり売上高の増加** (中期戦略)
 - フルスタックな技術力を備え、超上流工程から参画できる高度IT人材を高単金で提供
 - 実現に向けた取組方針: **人的資本の強化** (人材育成、タレントマネジメント、高度IT人材の待遇)
- **プロダクト・サービスビジネスの拡大** (長期戦略)
 - 人月に依存しない事業として、独自の製品・サービスを拡大
 - 実現に向けた取組方針: **新規事業に取り組むための体制の見直し(集約・強化)、インセンティブ(ストックオプション)の導入**

これにより、市場の期待を上回る成長性を実現する事業基盤の確立に取り組めます。当社の事業モデルを持続可能な形に進化させていくことで、企業価値の向上を目指します。

(参考) 2026年3月期の経営指標と経営戦略の概要

2026年3月期の経営指標(見込み)

指標	目標・見込み	補足
売上・利益	増収増益	
売上高	400億円	13期連続増加中
営業利益	48億円	10期連続増加中、売上比12.0%
当期純利益	33億円	4期連続増加中、売上比8.2%
株主還元		
配当金	125円	
配当性向	53%	(配当方針)配当性向50%
DOE	4.0%	
ROE	7.6%	
PBR	—	(目標)1.6倍以上へ
EPS	235円	

経営戦略

成長性の確保・拡大に向け、業容の拡大と新ビジネス創出に取り組み、一人当たり売上高を拡大

- ① システム開発事業の基盤拡大
事業における「強み」の確立
事業領域拡大による成長力の拡充
- ② ソリューションビジネスの拡大
製品ラインナップの拡充
販売チャネルの強化・収益力の向上
- ③ AI技術を基盤とした事業成長
システム開発事業変革
新たな価値創出



株式会社アルファシステムズ

<https://www.alpha.co.jp/>

<本資料の取扱上のご注意>

業績予想等につきましては、本資料の発表日現在におきまして入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合がありますので、あらかじめ、ご了承願います。

<本資料に関する問い合わせ>

〒211-0053 川崎市中原区上小田中6丁目6番1号 本社(中原テクノセンター1号館)

株式会社アルファシステムズ 経営企画本部 広報室

TEL : (044)733-4111(代) E-mail : ir@alpha.co.jp

WEB : <https://www.alpha.co.jp/>